

～ 女性に支持される『まんが王国』とビーグリーのこれから ～

ビーグリーとは

- **エンターテインメントコンテンツ関連ビジネスを展開**
 - ・国内最大級のコミック配信サービス「まんが王国」を中核として、コンテンツプラットフォーム事業を展開
 - ・2017年3月、東証マザーズに上場、1年後の2018年3月、東証第1部に市場変更
- **社名の由来・経営理念ほか**
 - ・社名の由来は、「進化論」のチャールズ・ダーウィンが世界航海に使った船の名『Beagle』号
 - ・理念は、固定観念にとらわれず、新しい発見と進歩を求め続ける。ミッションは、インターネットによって隠れた才能を持つクリエイターとファンを繋ぐことで、新市場・新顧客を開拓し、文化の発展に貢献する。ビジョンは、グローバルで通用するコンテンツプラットフォームの構築
- **業績予想(2018年12月期)**
 - ・売上高10,271百万円、営業利益1,248百万円

今後の事業展開

- **オリジナルコンテンツ創出とメディアミックス環境構築**
 - ・中核の「まんが王国」コンテンツをベースに、VR、グッズ、ゲーム、映画、アニメなど、メディアミックスを推進し、コンテンツプラットフォームを構築・拡大
 - ・他社IP(知的財産権)の掘りおこしに加えて、自社オリジナルIP(知的財産権)の創出を推進
 - ・国内ユーザーに加え、海外ユーザーにもアプローチ
- **オリジナルコンテンツの拡充**
 - ・8割超がコミックである電子書籍市場、4割超が電子コミックであるコミック市場の拡大が見込まれる業界環境を追い風に、出版社・作家やパートナー企業と連携したコンテンツ作りを推進
 - ・今期40タイトルの配信を目指す
 - ・早期に常時100タイトルの連載体制を構築予定

ビジネスモデル／特長・強み

- **ビジネスモデル**
 - ・売上高の95%以上がコミック配信ビジネス
 - ・出版社・作家等、ライセンサーと直接契約の実績が合計1,800件以上あり、通常必要な広告費負担等の中間マージン削減に貢献
 - ・作家から既存作品の権利を獲得(ロイヤリティ支払)して、ユーザーやその他電子書店に有料で提供(課金)するビジネスモデル
 - ・メディア状況を自ら観察し、効率的なユーザー獲得を実現
- **女性の利用率が高い**
 - ・一般的な有料電子書籍の女性利用者が50%弱である一方、「まんが王国」は約75%と高い
- **8億冊ダウンロード、会員数150万人に**
 - ・プロモーション多様化、コンテンツ拡充やサービス改善等により、2018年4月累計で8億冊ダウンロード
 - ・会員数は約150万人

株主還元

- **株主還元の考え方**
 - ・経営の重要課題の一つと考えており、「内部留保」、「投資」、「還元」のバランスを考慮
- **機動的に自己株式取得も実施**
 - ・2018年5月16日～7月4日まで、250,000株、総額約3.7億円の自己株式取得を実施
- **株主優待**
 - ・毎年1回、以下保有株式数に応じて、「まんが王国」で利用できる図書券を贈呈
 - ・ 100～ 499株 : 1,000ポイント
 - ・ 500～ 999株 : 5,000ポイント
 - ・ 1,000～4,999株 : 10,000ポイント
 - ・ 5,000株以上 : 50,000ポイント